

ISSN 1882-0468

ISSN-L 1882-0468

NDL 書誌情報ニュースレター

2012年2号(通号21号)

目次

デジタル時代の日本全国書誌	(収集・書誌調整課 横山幸雄)	1
お知らせ:講演会「書誌コントロールをめぐる論点:新しい枠組みに向けての課題整理」が終了しました	(収集書誌部)	7
お知らせ:「電子情報に関する標準」のページを掲載しました	(電子情報部 電子情報流通課 標準化推進係)	8
お知らせ:日本目録規則適用細則を改訂しています	(収集・書誌調整課 書誌調整係)	9
お知らせ:ISSN マニュアル日本語訳を掲載しました	(逐次刊行物・特別資料課 整理係)	10
コラム:書誌データ探検 欧米諸言語資料編	(外国資料課 整理係)	11
掲載情報紹介		14
編集者からの一言		15

デジタル時代の日本全国書誌

1 はじめに

2009年8月、IFLA 書誌分科会の作業グループによる”National Bibliographies in the Digital Age: Guidance and New Directions” (NBDA) が刊行されました。[\[1\]](#)

NBDA は、デジタル時代の全国書誌のためのガイドライン策定を目的として2002年に設置された作業グループによる調査・分析の成果物です。2008年6月には草案がウェブ公開され、同9月まで世界的レビューが行われましたが、NBDAにはそのレビュー結果も反映されています。

国立国会図書館では、NBDAの草案公開の段階でその概要を紹介し当館の全国書誌サービスとの関係にも言及していますが[\[2\]](#)、今後の書誌サービスを検討する上での参考資料となるべき内容が多々あることから、改めて全文を日本語訳し2012年4月にウェブ公開いたしました。

本稿では、NBDAの日本語訳『デジタル時代の全国書誌：指針および新しい方向性』[\[3\]](#)について解説するとともに、当館の新しい「全国書誌」の現状および今後の方向性を紹介いたします。

2 『デジタル時代の全国書誌』解説

概要については草案の段階で紹介済であるため[\[2\]](#)、ここでは重複を避け、書誌サービスの観点で重要と思われる事項を幾つか、章横断的に取り上げることとします。なお、()内の数字は、NBDAの該当する章・節・項の番号です。各章等の内容については[NBDAの目次](#)をご参照ください。

○ <利用者重視>

『国際目録原則覚書』(ICP) [\[4\]](#)の第2章「一般原則」で規定されているとおり、目録規則の作成における“最上位の原則は利用者の利便性”です。ICPは目録規則の上位規定でありその適用範囲は書誌データ・典拠データの作成に限られますが、データの提供・書誌サービスの観点からも、“最上位の原則は利用者の利便性”であることは論を俟ちません。

NBDAにおいては、全国書誌の利用者、利用者グループごとの特定ニーズ・利用方法を調査すべきこと(2.5)、全国書誌検索システムの機能・インターフェースは全ての利用者に役立つものであること(5.1)、全国書誌の目的・利用者に即したビジネスモデルを決定すべきこと(6.5.1)等、随所に「利用者」が出現します。ここで注意すべきは、全国書誌の「利用者」はエンドユーザーだけでなく、図書館の目録作業担当者・収集担当者・レファレンス担当者・資料保存担当者、出版者・書店等の書籍流通関係者、知的所有権の権利管理団体、さらにはウェブハーベスティングツールのようなコンピュータソフトウェア

も含まれる(2.2)ことでしょう。ウェブツールは、全国書誌をウェブ上で提供する際に考慮すべき重要な「利用者」です。

利用法/利用者	著者	タイトル	出版者	出版の日付	言語/出版国	ジャンル/形式	主題	識別子	対象利用者
エンドユーザー	○	○	○	○	○	○	○		
目録作業	○	○		○				○	
再利用	○	○	○	○	○	○	○		
蔵書構築				○	○	○	○		○
収集	○	○		○				○	
出版者による分析			○	○		○	○		○
統計				○	○	○	○		○
権利管理	○	○		○					
コンピュータソフトウェア	○	○		○			○	○	

図1: アクセスポイントとして提供されるべきコアエレメント [5]
(2.4「共通検索要件」より)

○ <目録作業の再構築>

デジタル資料においても、FRBR(書誌レコードの機能要件)に規定されている利用者タスク「発見」「識別」「選択」「入手」を支援するためには、伝統的な媒体の資料と同様、名称、タイトルおよび主題アクセスポイントに関する典拠コントロールが必要です(4.4.1.1)。

典拠コントロールは高コストですが、書誌データの再利用まで含めて考えればメリットは計り知れません。コスト低減のためVIAFのような国際的イニシアティブに参画することによって、国際書誌コントロールにも貢献できます(4.2.8)。

伝統的な目録作業における記述、典拠(標目、主題)と並んで、標準識別子が一層重要となります。これまでの代表的な標準識別子(標準番号)はISBN、ISSNですが、今後は相互運用性を高めるために、さらにISSN-L、ISTC(国際標準テキストコード)、ISAN(国際標準視聴覚作品番号)、ISWC(国際標準音楽著作コード)、ISRC(国際標準レコーディングコード)、ISNI(国際標準創作者名識別子)、NBN(全国書誌番号)が推奨されています(4.2.7)。

○ <外部機関との連携・協力>

図書館の目録作業担当者の高度な専門性を前提とした伝統的な目録作業は、限られた資源を可能な限り有効に割り当てる必要に迫られた今、見直さざるを得ません (4.2.3)。

また、全国書誌に何を収録すべきかを検討すれば、(特にデジタルな分野で) 全国書誌の利用者コミュニティ、法的要件、利用可能な資金、および技術的基盤/リポジトリの能力について熟考すべきことは明らかです (3.5)。

このような前提に立てば、全国書誌作成機関は、外部機関との連携・協力の機会を追求すべきであることは自明の理です (1.5)。国内協力のための体制を構築し (6.10)、優れた他国の例 (6.5.3、7.2、7.3) の長所を取り入れることが求められます。特に、出版者その他の出版物の供給者との協力は、非常に重要であるとされています (6.10)

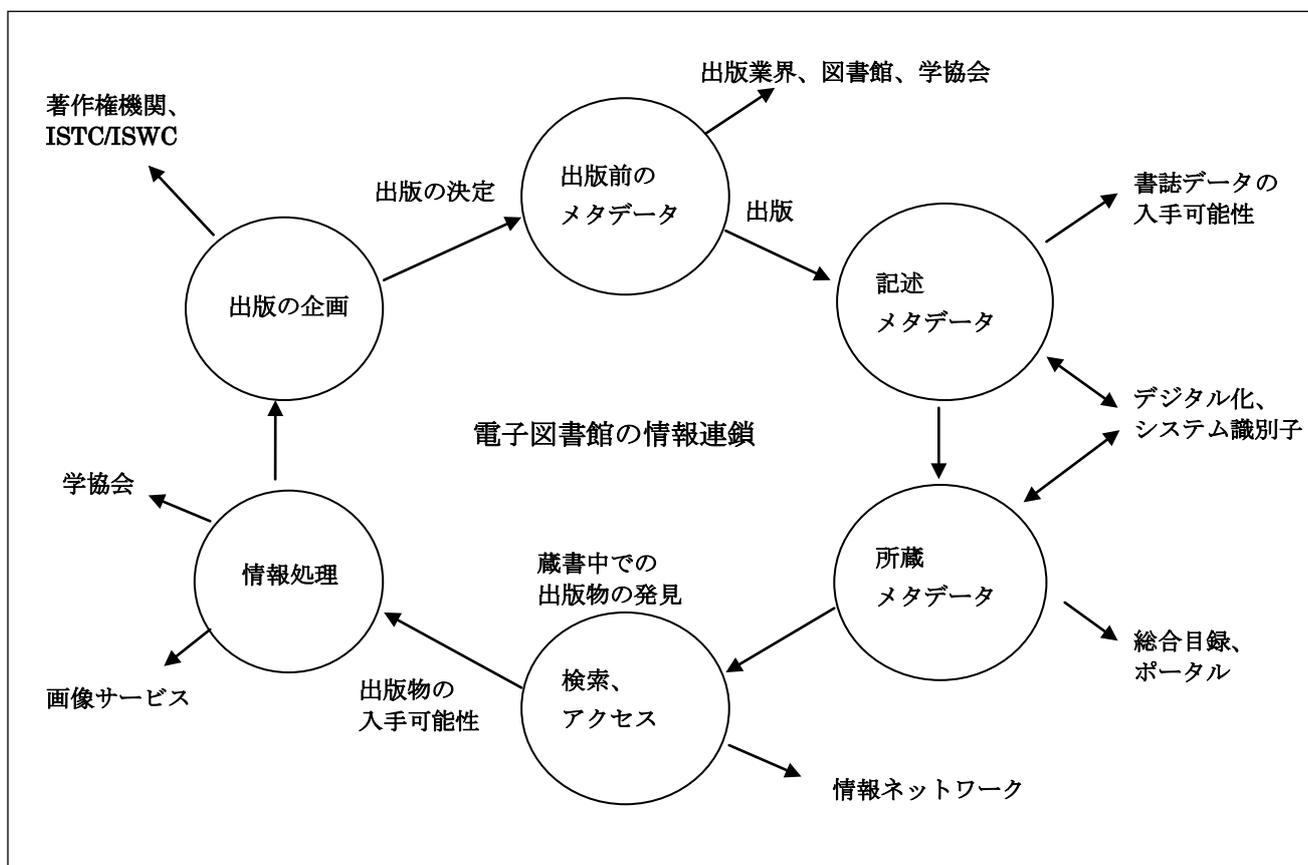


図 2：情報連鎖としての出版物のライフサイクル
(7「出版者との協力：メタデータの統合と共有」より)

● <相互運用性・互換性>

有効利用という点からも、全国書誌データの国際的な交換・集約を視野に入れ、相互運用性・互換性を保つ必要があります (5.5)。全国書誌データの作成やシステム構築においては、目録規則類 (5.5.1～5.5.6)、書誌フォーマット (5.5.7)、文字符号化 (5.5.8)、プロトコル (5.5.9) のいずれも国際標準を採用することが必要不可欠です。

○ <全国書誌の利用分析と定期的な検証>

デジタル資料の急増やウェブ技術の普及によって全国書誌を取り巻く環境は激変しており、全国書誌作成機関は、全国書誌の(潜在的なものを含む)利用を分析し、定期的に検証することが求められています(1.5)。

経営的な観点からは、全国書誌の効用をどのように測定するかも重要です。第三者機関による活動評価や監査の必要性も考慮すべきかもしれません(6.9)。

3 『日本全国書誌』から新たな日本の「全国書誌」へ

2012年1月、[NDL-OPAC](#)がリニューアルし、日本の「全国書誌」はNDL-OPACのサブメニュー「[書誌情報提供サービス](#)」のページから提供されることになりました。

その紹介に先立ち、2011年までの「全国書誌」サービスを簡単に振り返ってみましょう。1948年10月、冊子体の『納本月報』として出発した日本の全国書誌は、その後『国内出版物目録』『納本週報』と名称、刊行頻度の変遷を経て、1981年からは『日本全国書誌 週刊版』に改題刊行されました[6]。2002年以降暫くの間は、冊子体と併せて、同内容の書誌データを国立国会図書館ホームページ上でhtmlファイルとして提供していました。2007年6月には冊子体を終刊したことにより、一般的な利用はホームページ版のみとなり、そのホームページ版も2011年11月に終刊となりました。

ホームページ版(htmlファイル)での提供は、インターネット利用の普及という図書館環境の変化に即したものでありNBDAでも推奨されています(6.8)が、利用者の利便性、刊行頻度、速報性、全国書誌作成作業の効率化等の点で、改善の余地があったことは否めません。

1948年	2007年	
冊子体		
号単位で固定		
内容の通覧(又は索引による検索)		
	ホームページ版	OPACサブメニュー
	号単位で固定	内容は検索の都度変化
	内容の通覧(又はブラウザの文字列検索)	OPAC検索機能による絞り込み・一覧表示・詳細表示・ダウンロード等
	2002年	2012年～

図3: 媒体ごとの内容の固定度・検索方法等の変化

新たな「全国書誌」では、次のとおり改善が行われています。[7]

○ <利便性> (5.2、5.4)

冊子体の時代はタイトル索引、著者索引のみ、html ファイルではウェブブラウザの文字列検索機能に限定されていましたが、新システムでは、NDL-OPAC での通常の検索と同様、タイトルや著者だけでなく、資料種別、出版者、出版年、分類・件名等、様々な項目で絞り込むことが可能になっています。また、新システムでは、指定した検索結果集合の保存やダウンロードも可能です。

○ <刊行頻度・速報性> (6.7)

従来は目録作業が終了した書誌データを一週間単位で蓄積し、週次で提供していましたが、新システムでは目録作業終了後ただちにデータ提供を行う仕組みとなり、日次でのデータ提供が可能となりました。また、従来は目録作業中の書誌データは非公開でしたが、2012年1月以降、全国書誌の収録対象となる資料（ただし、アジア言語資料及び地図資料を除く）については作成途中の段階から書誌データを公開しています。

○ <全国書誌作成作業の効率化> (4.2.2)

従来は当館蔵書目録（NDL-OPAC）と日本全国書誌という別個の製品を提供するために個別の作業フローが必要でしたが、全国書誌が NDL-OPAC のサブメニューとして提供可能になったことによって、作業フローが一本化されました。

○ <今後の可能性>

以上のとおり 2012年1月の新サービス開始に合わせて多くの改善が行われてはいますが、日本の「全国書誌」には、今後も検討すべきことがまだまだ残されています。

たとえば、国立国会図書館法の改正によるオンライン資料の収集・提供の制度化に合わせて、当館でもオンライン資料を全国書誌に収録する(3.3)方向で検討を行っているところです。また、デジタル資料を含めた全国書誌データの典拠コントロール・主題分析(5.4)のあり方も要検討です。利用者重視は当然のこととしても、費用対効果(6.5.2)も考慮する必要がありますし、外部機関との連携・協力(6.10)の道筋はまだ見えていません。

当館では、2012年度中に、書誌データの作成・提供に関する新しい方針を策定する予定です。上に述べた諸課題についてもその新方針の検討対象となっており、方針策定後、その実施に向けて作成する個別計画の中で具体化していく予定です。

横山 幸雄

(よこやま ゆきお 収集書誌部収集・書誌調整課)

[1] National bibliographies in the digital age : guidance and new directions / IFLA Working Group on Guidelines for National Bibliographies ; edited by Maja Žumer. -- München : K.G. Saur, 2009. -- (IFLA series on bibliographic control ; v. 39) -- ISBN 978-3-598-24287-8.

[2] 動向 電子時代の全国書誌のためのガイドライン(草案)について 2008.9 NDL 書誌情報ニューズレター 2008年3号(通号6号)

http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_3507132_po_2008_3.pdf?contentNo=1

[3] デジタル時代の全国書誌(日本語訳)

<http://www.ndl.go.jp/jp/library/data/kokusai.html#04>

http://www.ndl.go.jp/jp/library/data/nbda_jp.pdf

なお、同一内容のファイルが、中国語訳等と並んで IFLA 書誌分科会のウェブサイトにも掲載されています。

<http://www.ifla.org/en/node/5226>

<http://www.ifla.org/files/bibliography/publications/national-bibliographies-digital-age-ja.pdf>

[4] IFLA cataloguing principles : the Statement of International Cataloging Principles (ICP) and its glossary : in 20 languages / edited by Barbara B. Tillett and Ana Lupe Cristán. -- München : K.G. Saur, 2009. -- (IFLA series on bibliographic control ; v. 37) -- ISBN 978-3-598-24285-4.

IFLA 目録分科会のウェブサイトには、2012年5月現在、日本語訳を含め26言語で掲載されています。

<http://www.ifla.org/en/publications/statement-of-international-cataloguing-principles>

また、日本語訳は当館ウェブサイトにも掲載しています。

<http://www.ndl.go.jp/jp/library/data/kokusai.html#02>

http://www.ndl.go.jp/jp/library/data/ICP-2009_ja.pdf

[5] コアエレメント (core elements) という考え方は、新しい目録規則である RDA (Resource Description and Access) と共通するものです。RDA では対象利用者 (target audience/intended audience) はコアエレメントではない等、細部では違いがありますが、言語/出版国、ジャンル/形式、識別子、対象利用者が著者、タイトル、出版者等と同列に扱われていることから、従来の目録(書誌データ)とは異なるものが求められていることが見て取れます。

[6] 1981年には、『日本全国書誌』の機械可読版である JAPAN/MARC の刊行も開始されています。

[7] 本誌2011年4号(通号19号)の記事「2012年1月からの全国書誌」もご参照ください。

http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_3485820_po_2011_4.pdf?contentNo=1

お知らせ：講演会「書誌コントロールをめぐる論点： 新しい枠組みに向けての課題整理」が終了しました

国立国会図書館は、2012年6月14日に講演会「書誌コントロールをめぐる論点：新しい枠組みに向けての課題整理」を開催しました。大阪学院大学教授の和中幹雄氏を講師としてお迎えし、RDAに関する欧米を始めとした国際的な目録の動向や、今後の書誌コントロールの在り方などについてお話しいただきました。おもに当館職員を対象とした講演会でしたが、館外の方にもご参加いただきました。

講演会の内容につきましては、次号でご紹介します。

(収集書誌部)

お知らせ：「電子情報に関する標準」のページを掲載しました

2012年4月20日、「[電子情報に関する標準](#)」のページを新たに作成しました。
国立国会図書館が採用する、メタデータや識別子等の電子情報の収集・提供・保存に関する標準、関連するリンク集や最新情報を掲載しています。

「電子情報に関する標準」のページの新規作成に伴い、国立国会図書館がメタデータ基準として採用する「[国立国会図書館ダブリンコアメタデータ記述 \(DC-NDL\)](#)」の掲載場所を以下のとおり変更しました。

(変更前)

トップ > 国会図書館について > 書誌データの作成および提供 > メタデータ基準

(変更後)

トップ > 国立国会図書館について > 電子図書館事業 > 電子情報に関する標準 > 国立国会図書館ダブリンコアメタデータ記述 (DC-NDL)

今後は「国立国会図書館ダブリンコアメタデータ記述 (DC-NDL)」の解説など、コンテンツの拡充を行っていく予定です。どうぞご活用ください。

○電子情報に関する標準 (日本語版)

<http://www.ndl.go.jp/aboutus/standards/index.html>

○電子情報に関する標準 (英語版)

<http://www.ndl.go.jp/en/aboutus/standards/index.html>

(電子情報部 電子情報流通課 標準化推進係)

お知らせ：日本目録規則適用細則を改訂しています

国立国会図書館では日本目録規則（NCR）を当館で適用するため、日本目録規則適用細則を定めています。

2012年1月からの MARC21 フォーマット採用とデータ作成・提供システム変更を契機として、全国書誌作成機関として標準化を一層推進するため、適用細則の内容を見直し、改訂を行っています。

現在の改訂状況は以下のとおりです。改訂が終わったものから、順次、当館ホームページの[適用細則一覧のページ](#)に掲載しています。

○ 改訂済

- ▶ [「日本目録規則 1987年版改訂3版 第II部 標目」適用細則 \(2012年1月\)](#)  [PDF File 392KB]

また関連して「標目」の「第23章 著者標目」および「第24章 件名標目」のうち個人名標目と団体名標目について、当館の定める適用細則を補足するための基準も改訂しております。

- ▶ [個人名標目の選択・形式基準 \(2012年1月以降\)](#)  [PDF File 377KB]
- ▶ [団体名標目の選択・形式基準 \(2012年1月以降\)](#)  [PDF File 470KB]

○ 改訂作業中

- ▶ 「日本目録規則 1987年版改訂3版 第2章 図書」適用細則
- ▶ 「日本目録規則 1987年版改訂3版」和古書適用細則
- ▶ 「日本目録規則 1987年版改訂3版 第4章 地図資料」適用細則
- ▶ 「日本目録規則 1987年版改訂3版」録音・映像資料適用細則
- ▶ 「日本目録規則 1987年版改訂3版 第9章 電子資料」適用細則
- ▶ 「日本目録規則 1987年版改訂3版」非図書資料適用細則
- ▶ 「日本目録規則 1987年版改訂3版 第13章 継続資料」逐次刊行物適用細則

○ 新規作成予定 (時期未定)

- ▶ 博士論文、中国語・朝鮮語資料など。

(収集・書誌調整課書誌調整係)

お知らせ：ISSN マニュアル日本語訳を掲載しました

ISSN (International Standard Serial Number: 国際標準逐次刊行物番号) は、逐次刊行物を識別するための国際的なコード番号です。

ISSN は、ISSN ネットワークという国際的な組織により維持・管理されており、パリにある ISSN 国際センターが統括しています。ISSN ネットワークのもとに国内センターがあり、当該国内で刊行された逐次刊行物に ISSN を付与しています。

国立国会図書館は、日本の唯一の法定納本図書館として網羅的に国内の逐次刊行物を収集する立場から、[ISSN 日本センター](#)として活動をしています。

このたび、当館ホームページに、ISSN ネットワークで共通に用いるマニュアル『[ISSN manual cataloging part. January 2009](#)』（2009年1月版）の日本語訳を掲載しました。ISSN 日本センターはこのマニュアルを参照して ISSN を付与しています。ISSN 日本センターの運用とは一部異なりますが、ISSN ネットワークを理解していただくために日本語訳を公開するものです。

(逐次刊行物・特別資料課整理係)

コラム：書誌データ探検 欧米諸言語資料編

外国資料課整理係では、欧米諸言語の単行資料の目録を作成しています。

本ニューズレター2011年4号(通号19号)の「[コラム：書誌データ探検 アジア言語資料編](#)」の末尾でも触れているとおり、当館では、2011年12月、目録作成に使用するシステムを変更しました。合わせて文字コードも Unicode を採用し、アジア言語資料の目録作成も、日本語や英語と同じシステム上で扱えるようになりました。2012年1月からは多言語に対応した新しい [NDL-OPAC](#) を提供しています。

多言語対応による影響は、アジア言語資料だけではなく、欧米諸言語資料の目録作成にも及んでいます。

○ <旧システムー入力できない文字はどうする？ー>

以前のシステムでは、アクセント記号の付いたラテン文字(拡張ラテン文字)など、入力することができないものが数多くありました。また、OCLC (Online Computer Library Center) の書誌データをコピーして目録を作成する場合(これを「コピーカタログング」といいます)、これらの文字に加え、キリール文字やギリシア文字で記録された部分をそのままコピーして使用することができませんでした。

これらの文字をどのように扱っていたかという、記号の付いたラテン文字は、該当する文字の前または後ろに、記号ごとに定められた代替表現を付けて入力していました。下図の、「目録に入力するときの形」の中の、「OE「&」」などが代替表現です。これらの代替表現は、2011年12月までの NDL-OPAC に表示する時には、取り除かれた形になっていました。

資料に表示されている形:	<i>Œuvres complètes de François Arago.</i>
目録に入力するときの形:	OE「&」uvres compl「G」etes Fran「C」cois Arago.
OPAC に表示される形:	<i>Œuvres complètes François Arago.</i>

代替表現の例

また、キリール文字とギリシア文字はラテン文字に置き換えて入力していました。ある言語の文字を他の文字に置き換えることを翻字といいます。翻字のルールは複数あり、同じ文字でも、どの翻字ルールを適用するかによって、置き換えた後の文字が異なる場合があります。当館では、キリール文字とギリシア文字を翻字する際は [ALA-LC Romanization Tables](#) に基づいて行っています。

[ALA-LC Romanization Tables](#) とは、米国議会図書館 (LC) と米国図書館協会 (ALA) が共同で、

ローマ字以外の文字をローマ字へ翻字する規則を言語ごとに定めたものです。

キリール文字	Г	Н	Х	Ш
ロシア語翻字	g	i	kh	shch
ウクライナ語翻字	h	y	kh	shch
ベラルーシ語翻字	h	-	kh	-
ブルガリア語翻字	g	i	kh	sht
セルビア語翻字	g	i	h	-

キリール文字の翻字例

注) “-” はその言語で使用されていない文字

表のように、同じキリール文字でも、言語によって違う文字に翻字することがあります。しかし、あるひとつの言語の中では、同一のキリール文字は必ず同一の文字に翻字されます。

一方、ギリシア文字の場合、同じギリシア語にも関わらず、同一の文字が異なる文字に翻字されることがあります。他の文字と連続することによって翻字が変わるもの、語頭に存在するか語中に存在するかで違う翻字になるもの、それから、発音上の相違を示す記号を想定して翻字しなければならないもの、等が定められています。ギリシア語の母音の上に「´」「˘」という記号（氣息記号といいます）が付与され、下段（有気音）の翻字では母音に先行して「h」が加えられています。

無気音	ギリシア文字	α	ε	η	ι	ο	ω	υ
	翻字	a	e	ē	i	o	ō	y
有気音	ギリシア文字	α	ε	η	ι	ο	ω	υ
	翻字	ha	he	hē	hi	ho	hō	hy

無気音、有気音の違い

氣息記号は、現在、現代ギリシア語の出版物では表記されないことが一般的ですが、一方、[ALA-LC Romanization Tables](#) では、「ギリシア文字のテキストに氣息記号が表記されていないとき、有気音を表す h は適切に付与する」（2010年7月現在）と定めているため、目録作成者は翻字の際、記号という手掛り無しに、hの有無を判断しなければならないということになります。

○ <新システム—様々な文字が入力可能に！—>

現在のシステムでは、ほとんどの文字をそのまま入力することが可能となりました。

記号の付いたラテン文字は代替表現を使わず、その文字のとおりに入力しています。また、以前のシステムで入力した代替表現を含む書誌データは、元の文字に変換した上で新しいシステムへ移行しました。

2012年1月から新しくなった [NDL-OPAC](#) では、記号の付いたラテン文字は資料に記載されているままの形で表示されています。検索する際には、資料にあるとおりの形だけでなく、記号付きラテン文字の記号を省略した形でも検索することができます。

タイトル	Œuvres complètes de François Arago.
版表示	2e éd. / mise au courant des progrès de la science par J.-A. Barral.
出版事項	Paris : Legrand, Pomey et Crouzet, [186-?]

現在の NDL-OPAC 表示

キリル文字とギリシア文字のタイトルも原文のままの文字(原綴)で入力するようになりました。そのため、キリル文字とギリシア文字については、OPAC では翻字のデータと原綴のデータが混在しています。2011年12月までの旧 OPAC での検索は翻字でしかできませんでしたが、現在は、過去の翻字データも含めて原綴での検索が可能です。ただし、ウクライナ語等の一部の文字は原綴からの検索ができないため、翻字でも検索してみることをお勧めします。

より便利になった NDL-OPAC で、ぜひ欧米諸言語の資料を探してみてください。

(外国資料課整理係)

掲載情報紹介

2012年3月30日～2012年6月28日に、国立国会図書館ホームページに掲載した書誌情報に関するコンテンツをご紹介します。

- ・ [「日本目録規則 1987年版改訂3版」適用細則の改訂についてお知らせを掲載](#)
- ・ [「日本目録規則 1987年版改訂3版 第II部 標目」適用細則を更新](#)
- ・ [個人名標目の選択・形式基準（2012年1月以降）を掲載](#)
- ・ [団体名標目の選択・形式基準（2012年1月以降）を掲載](#)
(掲載日：6月12日)

- ・ [Unicode 外の文字リストを更新](#)
(掲載日：6月22日)
(掲載日：5月17日)

- ・ [講演会「書誌コントロールをめぐる論点：新しい枠組みに向けての課題整理」聴講者募集のお知らせを掲載](#)
(掲載日：5月8日)

- ・ [デジタル時代の全国書誌（日本語訳）を掲載](#)
(掲載日：4月6日)

- ・ [国立国会図書館分類表（NDLC）を更新](#)
(掲載日：4月6日)

編集者からの一言

期待と確信とわずかな不安とを抱きつつも、恐るおそるお願いしてみても出て来た「それ」が、期待をはるかに上回るものであった時の喜びは格別で、「それ」とは、たとえば、レストランの一皿やバーの一杯であったり、旅先の宿であったり、通信販売で注文した鞆であったりし、また、執筆を依頼した原稿であったりもする。

本ニューズレターの編集に携わって以来、そのような喜びを与えてくれる原稿に幾度か出会ってきており、本号のメイン記事「デジタル時代の日本全国書誌」もそうした原稿のうちのひとつではあるのだが、そのような個人的な喜びをこの場で表明するのは、やはり差し控えたいと思う。

(大柴)

NDL 書誌情報ニューズレター (年4回刊)

ISSN 1882-0468 / ISSN-L 1882-0468

2012年2号(通号21号) 2012年6月29日発行

編集・発行 国立国会図書館収集書誌部

〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1

E-mail: bib-news@ndl.go.jp (ニューズレター編集担当)